地域教育情報紙
（令和５年度）
第　２　号

令和５年７月３１日発行
《担当》富士･東部教育事務所
教育支援スタッフ
土屋義寛 ・ 佐藤弘章・河西秀章

『　　　』は、富士･東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士･東部教育事務所が発行する情報紙です。１年に6回程度の発行を予定しています。

谷村第二小学校・地域・市役所・保護者の４者連携

「避難所をつくり体育館に泊まろう！」

7月７日（金）～８日（土）の２日間にかけて、谷村第二小学校において、「避難所をつくり体育館に泊まろう！」のテーマで、防災避難訓練が実施されました。当日の参加者は、谷村第二小学校職員及び６年生、三吉地区防災士会、都留市役所総務課行政防災室、６年生の保護者の方々であり、学校・地域・市役所・保護者の４者が連携した、山梨県内でも珍しい取り組みとなりました。今年度で２回目の開催となります。

まず始めに、三吉地区防災士会の方々から命を守るためにするべきことについてのお話がありました。今回は地震を想定した避難訓練であるため、地震の時に何が起こるのか、倒壊に巻き込まれた時はどうしたらよいのか等を、子ども達と対話形式で進めていきました。子ども達もしっかりと話を聴き、答えるときも大きな声で答えていました。

つづいて、児童と保護者がそれぞれ合計４つの班になり、自分たちが理想とする避難所のレイアウト作りを行いました。どのような人が避難してくるかの指示書があり、その指示に則って避難所開設の準備となります。紙面上ではありますが、将来この地域を担う子ども達が実際に避難所開設についてのアイデアを出し合う良い機会となりました。視点の違いからか、子ども達が作成したものと保護者が作成したものでは微妙な違いも。子ども達が作成したものには「ストレス発散ゾーン」がありました。自分たちの有り余るエネルギーについて、自分たちなりに考えた結果と思われます。防災士の皆さんも、感心していました。

初日の最後は、防災備蓄倉庫の確認と段ボールベットの組み立てを行いました。いくつかのパーツを組み立てて作成しますが、意外とむずかしい。みんなで色々と試してみて、ようやく出来上がりました。みんなで実際に寝てみると、今度はその頑丈さにびっくり。何人もの子ども達が楽しそうに横になっていました。

その後、子ども達は一度家庭に戻り、夕食後の１９：００頃に再集合。この日は体育館に宿泊し、翌日は非常食等を使って朝食を作る体験をしました。

実際に災害が起こった時には、学校、地域、自治体、保護者の連携・協力が不可欠となります。事前に顔を合わせ、共に防災について話し合い、準備をしておくことは非常に大切なことです。谷村第二小学校でのこの活動がモデルケースとなり、今後山梨県全体に広がっていくことを期待します。

子どもたちの教育は地域全体で担う!!

南都留地域教育推進連絡協議会　総会・講演会　開催

南都留地域教育推進連絡協議会では、令和５年度の総会･講演会を６月１４日(水)に「勝山ふれあいセンター」において開催しました。

総会では、昨年度の事業報告･会計報告･監査報告の後、本年度の役員について承認されました。後半は、都留文科大学教養学部地域社会学科教授 鈴木健大先生から「新しい結びつきで広がる教育の可能性～地域教育力と学社連携～」という演題で講演をしていただきました。鈴木先生は、学生とともに地域と連携したプロジェクト型授業に取り組んでいます。講演では、日本国内の人口減少・少子高齢化の現実を踏まえつつ、丸亀市や上野原市秋山でのケーススタディを例にして、学社連携の視座と可能性についてのお話をしていただきました。

学校教育と社会教育が相互に足りない部分を補完しながら、子どもたちの成長を温かく見守っていく必要性を学びました。

「まちづくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる」

地域教育「明日の風」

北都留地域教育推進連絡協議会　定期総会・教育講演会

北都留地域教育推進連絡協議会（地域教育「明日の風」）では、6月29日(木)に定期総会・教育講演会を上野原市文化ホールで開催しました。総会では、昨年度の事業報告をプレゼンにて行い、会計決算報告・会計監査報告に続き、役員選出では、会長を村上信行上野原市長とし、小林信保大月市長、舩木直美小菅村長、木下喜人丹波山村長を副会長とする役員が承認されました。令和５年度の事業計画案および会計予算案では、「まちづくりは人づくり・地域の子どもは地域で育てる」のスローガンのもと、北都留地域の各種団体・行政、地域住民との連携を図り「望ましい環境づくり」を推進する多くの事業についての貴重な意見をいただき可決しました。

総会の後は、活動発表と教育講演会が行われました。

活動発表は「学校と地域の連携」という演題で島田子どもクラブコーディネーター 碓井恒夫様に行っていただきました。島田子どもクラブは、平成２４年度から島田地区でスタートした放課後子ども教室です。島田小学校の児童を対象に希望者を募って様々な企画を開催しています。発表では、具体的な活動例を出しながら、地域と学校をどのように連携・協働させて、子ども達の居場所づくりに取り組んでいくべきかについてお話をしていただきました。

教育講演会は「人権を地域における教育・文化とするために～ジェンダー平等を手がかりに～」という演題で都留文科大学教養学部地域社会学科准教授 冨永貴公先生に行っていただきました。SDGｓの目標５「ジェンダー平等を実現しよう」をもとに、人権とジェンダー／セクシュアリティ平等、あるいは教育におけるジェンダー／セクシュアリティのお話をしていただきました。山梨県は男女ともに４年生大学への進学率が非常に高いそうです。しかし、同時に男女間の進学率の格差は全国で一番大きいそうです。我々大人が、知らず知らずのうちに男女という性別によって対応を変えているのかと考えさせられる内容でした。

都留市・西桂町・道志村

「第３０回 生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」

　６月２１日（水）、県立都留興譲館高等学校（中島利秀校長）において「第３０回　生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」が開催されました。都留市、西桂町及び道志村の中学校の校長先生方と都留興譲館高校の校長先生が一堂に会し、「都留ブロックの中・高連携教育の現状や課題」について情報交換と意見交換を行いました。

　今回の会議においては、進学先との「ミスマッチ」の点について多くの意見が出されました。ここ数年、コロナ禍の影響で多くの体験学習や出前授業、あるいは卒業生からの話を聴く機会が失われてきました。その結果、中学校の生徒達は自分の高校生活がイメージしづらくなり、高校入試の際には学科選択が難しくなってきているとの報告がありました。また、教員や保護者が「高得点＝良い学校」と考えてしまうと、生徒達が自分で自分の進路を決められなくなり、その結果、入学後のミスマッチにつながり、方向転換を余儀なくしてしまうケースもあるとの意見も出されました。

　都留興譲館高校では、このような問題をなくすためにも、今後は出前授業を計画したり、オープンスクールでは体験を中心としたものにする予定とのことです。また、各学科の一年間の学習成果を発表する「令和５年度 教育実践発表会」は、来年２月４日の日曜日に開催され、中学生の生徒達も参加できます。高校に入学後にどのようなことを勉強するのかを知る良い機会になると思います。多くの生徒達が参加することを期待しています。

未来を拓く！　高校生インターンシップ推進事業 地域連絡会議

　５月１５日（月)、県総合教育センターにおいて、高校生インターンシップ推進事業地域連絡会議が開催されました。

　全体会では、インターンシップの昨年度の状況や本年度の事業計画、高校新卒者の就職内定率・求人状況等の説明の後、山梨労働局や山梨県中小企業団体中央会、県産業労働部労政雇用課から説明がありました。

　富士・東部地区の地域連絡会議では、インターンシップ等担当者による今年度の就職希望者、各校の実践状況や課題が発表されました。各学校の特色に応じた体験活動の状況や新規受け入れ企業の開拓における課題、看護体験・医師体験の実施状況など様々な意見交換がされました。

　ハローワーク富士吉田の渡邊亜矢子就職支援ナビゲーターからは、「郡内の有効求人倍率は観光業が上昇している。ただし、製造業（金属・機械組み立て）は今後部材調達ができないなどの懸念材料があるため、新卒者の採用を抑えている状況である」との報告がされました。また、「インターンシップは働くことの楽しさ、大変さについて学ぶ良い機会である。ぜひ積極的に参加させてほしい。また、リスト以外の企業でのインターンシップを望む場合にはハローワークまで問い合わせてほしい」とおっしゃっていました。

　インターンシップは、高校生の皆さんにとって自分の将来を考え、自己を知る絶好の機会になるはずです。ぜひ積極的な参加を！

中高生のための
Kato’s Ensemble コンサート

６月３日（土）大月東中学校で「Kato’s Ensemble コンサート」を開催しました。これは昨年度から実施している「明日の風・芸術文化振興事業」の一つで、富士吉田市の銘楽堂さんのご協力をいただいて開催したものです。今回は、大月東中学校と都留高校の吹奏楽部の皆さんに呼びかけ、あわせて 29 名が参加してくれました。

「Kato’s Ensemble（カトーズ・アンサンブル）」とは、髙木美里さん（フルート）、中島健太さん（クラリネット）、中村沙穂さん（チェロ）、宮尾悠さん（チェロ）の４人によるユニットで、演奏を通して「防火・防災」を広める活動もしているそうです。（今回は違いますが）

当日は２部構成で、第１部がコンサート、第２部が質問コーナーという形で進めました。第１部では、１時間あまりで『春の声』『花は咲く』『ジブリメドレー』など 14 曲を演奏していただきましたが、普段では考えられないくらい近い所で演奏を聴くことができ、生徒たちは素晴らしい演奏を聴くだけでなく、演奏者の指づかいや表情、体の動き、息づかいなども見ることができました。第２部では、生徒たちがプロの演奏家の皆さんに率直な質問を投げかけ、一つ一つ丁寧に答えていただきました。生徒たちにとって貴重な時間となり、大きな財産になったのではないかと思います。

Kato’s Ensemble の皆さん、銘楽堂の皆さん、素晴らしい演奏、そして素晴らしい時間をありがとうございました。

シオジ森の学校　サンショウウオ観察会

７月２日（日）にシオジ森の学校の主催で「サンショウウオ観察会」が行われ、18 名（大人 13 名、子ども５名）が参加しました。シオジの森にはサンショウウオの一種である「ハコネサンショウウオ」が生息しています。サンショウウオは両棲類の生物で，水中で産卵し、幼生はえら呼吸をして水中で生活します。成体になると、体の構造や機能が大きく変化し、陸上で生活するようになりますが、なかなか捕獲することができません。そこで今回は水中で生活している幼生のサンショウウオを捕獲して観察しました。

講師の阿部純先生（山梨県希少野生哺乳類調査会事務局長）のご指導で、川に入り、サンショウウオが生息していそうな流れのない場所で石を持ち上げ、探していきました。ひたすら石を持ち上げ続け、昼食をはさんで３時間ほどで 21 匹のサンショウウオを捕獲することができました。これだけ多くのサンショウウオが生息していることに驚きましたが、阿部先生の説明を聞いて納得しました。

阿部先生の話によると、シオジの森は容易に立ち入ることができないので、外来種や国内移入種（魚類、細菌・ウイルス）、生息環境の改変、乱獲が起こりにくく、重要な保護区となり得る場所なのだそうです。

最後にサンショウウオの大きさを測って、川に放してあげました。大きいもので７㎝以上のサンショウウオもいました。なかなかの大きさですね。この観察会を通して、シオジの森の魅力と希少性をまた一つ発見することができました。これからもシオジの森の豊かな自然を大切にしていきたいと思いました。

明日の風　アスリート実技講習会

今後の予定　9月16日(土)・11月3日(金)
2月10日（土）・3月9日（土）

６月２４日（土）、大月市民総合体育館で第２回アスリート実技講習会が開催されました。今回は桃太郎スポーツクラブとの共催の形で行われました。

当日は、北都留地区の児童生徒９４名とスタッフ２３名での開催となりました。最初に全体でウォーミングアップを行い、身体をほぐした後に、参加者が５種目（３０mダッシュ・３０mハードル・立ち幅跳び・走り高跳び・メディシンボール投げ）の競技で記録測定を行いました。なかなか記録が伸びずに悔しい思いをしたり、自己最高記録を達成して大きな歓声を上げたりと、様々な表情が見られた一日となりました。

また、体育館の中にはトランポリン、ミニトランポリン、スラックラインも用意されていて、記録測定の合間に多くの子ども達が挑戦していました。慣れていないため最初はぎこちなかったですが、上手な子どもは数回行ううちにきれいな形でトランポリンを跳べるようになっていました。

第４１回　吉田空襲展

伝えよう戦争　つなげよう平和

7月21日（金）～２３日（日）にかけて、富士吉田市民会館にて吉田空襲展が開催されました。

７８年前、下吉田第二小学校から富士山にかけての地域は松林に覆われており、その松林の中に、戦争で使う飛行機を作ったり修理したりする「武蔵航空株式会社吉田工場」がありました。この工場は、１９４５年の７月と８月に二度の空襲を受け、１２名が死亡し、負傷者は２０数名に上りました。

開会セレモニーでは児生連代表生徒による「平和の誓い」が行われました。「他国で行われている戦争に対して無関心でいることは、自分の周りで苦しんでいる友達に対しても無関心でいる事と同じではないだろうか？遠い国にいる人にも、自分の周りにいる人にも、同じように助け合い、関わり合い、思いやりや関心を持ち、命を大切にしながら一生懸命に生きることが必要である」と訴えました。

その後行われたフィールドワークでは、空襲の跡地と殉難碑を巡りました。今では、当時の工場の心臓部であった変電所しか現存しませんが、児童生徒の皆さんはスタッフの方々の話をしっかりと聴きながら、当時の工場の様子に思いを馳せていました。

展示室では、吉田空襲の状況の説明資料や戦時中の市内の出征見送りの様子を捉えた写真などが展示されていました。戦時中に下吉田第二小学校グラウンドで行われた戦地での勝利を祝う祝賀会の写真と、今日その同じグラウンドで子ども達が元気に走り回って遊んでいる姿を比較したときに、平和のありがたさが身にしみました。

山梨県立産業技術短期大学校　都留キャンパス
小中学生向け出張授業のご案内

都留キャンパスでは、当校教職員が小中学校に出向き「出張授業」を実施いたします。「ものづくり」の仕組みや面白さを伝え、小中学生のキャリア教育に役立てていただきたいと考えています。

令和５年度　小中学生向け「出張授業」一覧

No.	テーマ	対応学科	内　　　容	対象学年
1	生産工場現場	生産技術	「仮想工場見学」　製造現場の中を見てみよう。	小学（高学年）・中学
2	ものづくり「材料」	生産技術	ものづくりには欠かせない、「材料」について学んでみよう。	小学（高学年）・中学
3	機械「部品」	生産技術	機械の「部品」のつくりかたを知ってみよう。	小学（高学年）
4	3Dプリンター	生産技術	3Dプリンターって何かな？　※仕組みと操作、デモンストレーションを行います。	中学生
5	ものづくり体験（生産工作）	生産技術	「ブーメラン」の製作体験を、みんなでやってみよう。	小学（低中学年）
6	ものづくり体験（電子部品）	電子技術	たたくと光るLEDランタンをつくろう！　※はんだ付け作業を行います。	小学（高学年）
7	ものづくり体験（電子部品）	電子技術	家庭用の「TVリモコン」でLEDを光らせてみよう。	小学（高学年）
8	プログラミング体験	情報技術	コンピュータプログラムの話し	中学生
9	プログラミング体験	情報技術	４年生～6年生対象「プログラミング」を学んでみよう。	小学（中高学年）
10	課題探究（地域活性化）	観光ビジネス	【地域課題解決】人口減少、空き家の増加等の地域課題を観光活用で考えよう。	小学（高学年）・中学

令和５年度　高校生向け「出張授業」一覧　（一部抜粋）

No（抜粋）	テーマ	対応学科	内　　　容
2	力の拡大装置について	生産技術	「仮想仕事の原理」に基づき考案された「力を拡大する装置」の紹介等を行います。
4	ミクロを削る	生産技術	測定原理の解説、測定器（ノギス、マイクロメーター）による実測体験してみます。
5	家電製品と制御工学	生産技術	社会にあふれる「家庭用電化製品」に潜む、制御工学技術を学びます。
7	3Dプリンター入門	生産技術	3Dプリンターの構造、仕組みを学び、実物・デモンストレーション体験を実施します。
9	IoTの活用事例	電子技術	リモートセンシング、リモートコントロール実演による「IoT技術」の活用事例を学びます。
10	相対性理論	電子技術	アインシュタイン「相対性理論」について、理論と実験の両面からの理解を促進します。
13	組込みプログラミング実習	電子技術	マイコン（ArduinoProMini）を用いて「組込みプログラミング基礎」を学びます。
15	Python言語でドローンを飛ばそう	電子技術	「AI」「ロボット」で用いるPython言語によるプログラム制御で、ドローンを飛ばします。
16	ソフトウエアを作るシゴト	情報技術	ソフトウエアを作る仕事（ソフトウエア開発）について、具体的体験で学びます。
17	プログラミング入門	情報技術	ビジュアルデザイン言語を用いて「CG」を描き、プログラミング基礎を学びます。
19	［AI］手書き文字判定機	情報技術	手書き数字（0～9）を学習し、「手書き文字判定機」をプログラミングします。
20	［AI］タイタニック号生存者の予測	情報技術	タイタニック号「乗客名簿」を用いて、生存者を「AI予測」するプログラム体験を行います。
21	観光を学ぶと見えるモノ	観光ビジネス	観光の経済効果、テーマパークでの行動等、学問的考察アプローチから観光について学びます。
22	ローカル・ツーリズム講話	観光ビジネス	地域の魅力を再発見し、地域資源を活用した「地域活性化プラン」を考察します。
23	観光活用による地域課題の解決	観光ビジネス	少子高齢化での「人口減少」「空き屋増加」「公共機関」等、観光で取り組む活性化を考察します。

※ご要望、問合せがあれば、産短大「塩山キャンパス」教務学生課まで。　0553−32−5201

☆オープンキャンパス（都留キャンパス）

令和5年8月27日（日）…　実施時間　　□受付；9:30～　■説明会；10:00～12:00

※事前申込制です。（産短大HPより・8月24日締め切り）

☆個別見学会　（希望学科（都留C；生産技術・電子技術）施設見学および授業見学等）

※オープンキャンパス参加が難しい場合に、ご活用ください。

※事前の申込みが必要となります。HPまたはお電話にて。